

学長のコラム

ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた授業形態

先月の学長コラムでは「9月入学」について論じたが、急転直下、6月5日に萩生田文科大臣が導入見送りを表明した。その背景として、先月のコラムで論じた多くの課題に対して教育の専門家や教育現場を預かる全国市長会・町村会などから慎重・反対論が噴出したことや、自民党の検討ワーキングチームでも見送りの意見が強まったことが挙げられる。緊急事態宣言が解除され、学校の休校措置が徐々に解除されたことも、大きな変革を避ける方向性を後押ししたと思われる。

さて、本学では4月27日から前期セメスターを開始し、全ての授業を遠隔授業で実施していたが、緊急事態宣言の解除を受けて6月1日から、原則として「実技を伴う科目」や「機器の取り扱いに関する科目」に限って面接授業を実施している。文科省のアンケート調査によれば、6月1日時点での全国の大学・高等専門学校での授業実施形態は、授業を開始した大学等（1066校）のうち約6割が遠隔のみ、1割が面接のみ、残りの3割が遠隔と面接を併用している。遠隔のみの大学も徐々に面接授業を増やす意向があるが、全面的に面接授業を開始する時期については、約2割が6～7月中、2割強が8月以降、残りの5割以上が検討中と答えている。

本学でも後期の授業形態を模索する時期に来ているが、授業の遅れは夏休みの一部を利用すれば取り戻すことが出来るので、後期は予定どおり開始可能である。一方で、後期授業の開始に際しては、国内外の人の移動の活発化に伴って感染リスクが高まり、第2波、第3波の可能性を否定できない。また、感染者数が減ってもワクチンによるウイルスの封じ込めが徹底されるまでは感染リスクはなくならないので、保健医療系大学としては、引き続き万全の感染防止対策をとった上で、面接授業の割合を決めていくことになる。また、これまでの遠隔授業の取り組みから、面接授業にはない利点が出てきたことも事実である。ウィズコロナ・アフターコロナ時代を控えて、ネット社会の実現が加速されるのは当然のことで、科目によっては積極的に遠隔授業を取り入れ、来たるべきニューノーマルへの対応を図ることも大切である。今後、授業の送り手（大学側）と受け手（学生側）の双方のネット環境の整備とともに、学生と教職員のそれぞれが遠隔授業に馴れることも必要となってこよう。



園芸療法実習(芋苗植え)の遠隔授業

5月の登校禁止期間中に園芸療法実習の遠隔授業が行われた。学生に替わって教職員が芋苗を植え、その様子がZoomの生中継でOT専攻の新入生に届けられた。秋には学生たちが収穫を行うことになる。写真は、説明中の為近講師。

6月・7月・8月の主な行事予定

6/30 (火)	新任教員によるお披露目講演会及び昇任教授による講演会
7/9 (木)	賞与支給式
7/23 (木)	(海の日) 授業日
7/24 (金)	(スポーツの日) 授業日
7/26 (日)	オープンキャンパス (Web相談会)
8/3 (月)	(看護学科3年次) 臨地実習 (~11/20)
8/7 (金)	(助産) 臨地実習適格認定書授与式
8/16 (日)	オープンキャンパス (Web相談会)
8/21 (金)	FDセミナー
8月下旬	チャレンジ熊保大 (Web相談会)

※8/11～13、8/17、18は計画年休日、8/14は出勤日です。

崎元理事長 土木学会功績賞を受賞

崎元理事長は、半世紀以上にわたる土木学会員としての諸活動による学会活性化への貢献、橋梁などの終局強度解析法や新しい設計法の開発への貢献、加えて、教科書や日米の技術書の刊行、学生・技術者の育成に貢献したとの理由で土木学会功績賞を受賞されました。6月12日の土木学会総会での授賞式は、コロナのために実施されなかったとのことですが、心からお祝い申し上げます。(文責：企画・人事課)



イモート講義

OT専攻では、臨床場面で用いられる様々な作業を体験する科目である「基礎作業学技法」で、5月に入ると学生の手でさつまいもを植え、後期には収穫や調理体験をしてもらっています。しかし、今年はCOVID-19による遠隔授業対応となり、学生たちの手で植えることができなくなりました。後期の授業のためにも5月中に植える必要があり、リモート講義の資料作りも兼ねて、宮田講師と予定の半分の100本は植えたのですが、残り120本は全教職員に助けを求めました。すると、急なお願いにもかかわらず、事務・全学科専攻から約20名の教職員にご協力いただき、和気あいあいと芋植えを終えることができました。

なお、当日の芋植えの様子は、ZOOMを使ってOT専攻1年生には生中継しました。学生には喜んでもらったようで「先生方の顔を見られてうれしかった」「はやく対面授業で交流したい」「また中継をやしてほしい」などの多くの感想をもらいました。今後も園芸を通じて、教職員と学生が芋づるのようにつながっていければと思っています。(文責：リハ学科 OT専攻 講師 爲近 岳夫)



私の秘話ヒストリー

今回は学生相談・修学サポートセンターの嶋田 かをる教授に投稿していただきました。

この時期になると思い出される光景があります。家族旅行を終えて帰国の途についた機内の中で、日付変更線を越えたら誕生日を迎える息子を祝ってあげようと、客室乗務員の方にその旨を伝えておきました。すると、離陸から3時間程経過した時だったでしょうか「お誕生日おめでとうございます。」と、可愛くデコレートされたショートケーキと、今では考えられない飛行中のコックピット見学をプレゼントされたのです。



北太平洋の海原に浮かぶミッドウェー島を眼下に、寝ぼけ眼の息子と少年のように喜ぶ夫とともに機長、副機長と写真に納まりました。息子はこの最高の誕生日が契機となり・・・と綴りたいところですが、航空機業界に目をむけることなく自動車製造のエンジニアとして、まもなく三十路を迎えようとしています。

このように以前は機長の許可が出ればコックピット見学ができました。しかし、国内では1999年の全日空61便のハイジャック(私達の帰国から数日後の事件でした)、国際線では2001年の同時多発テロ(9.11)から見学できなくなり、貴重な体験となったのです。